

2009年 1 月18日 実施

平成20年度（第40回）  
情報処理検定試験  
〈プログラミング部門〉  
第2級 試験問題

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は 8 ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 は共通問題です。
5. 【5】 【6】 【7】 の問題は、COBOL・イベント駆動型 BASICの  
どちらか 1 つを選択し、解答用紙の選択言語を  で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は50分です。

主催 財団法人 全国商業高等学校協会



## 【4】 次の各問いに答えなさい。

問1. 次の説明文に最も適した答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

- (1) 流れ図などで表された処理手順を、プログラム言語で記述すること。
- (2) 原始プログラムの翻訳時に発見される、プログラム記述の誤り。
- (3) 特定のOSに依存することのない、オブジェクト指向のプログラム言語。

## 解答群

ア. 論理エラー

イ. コーディング

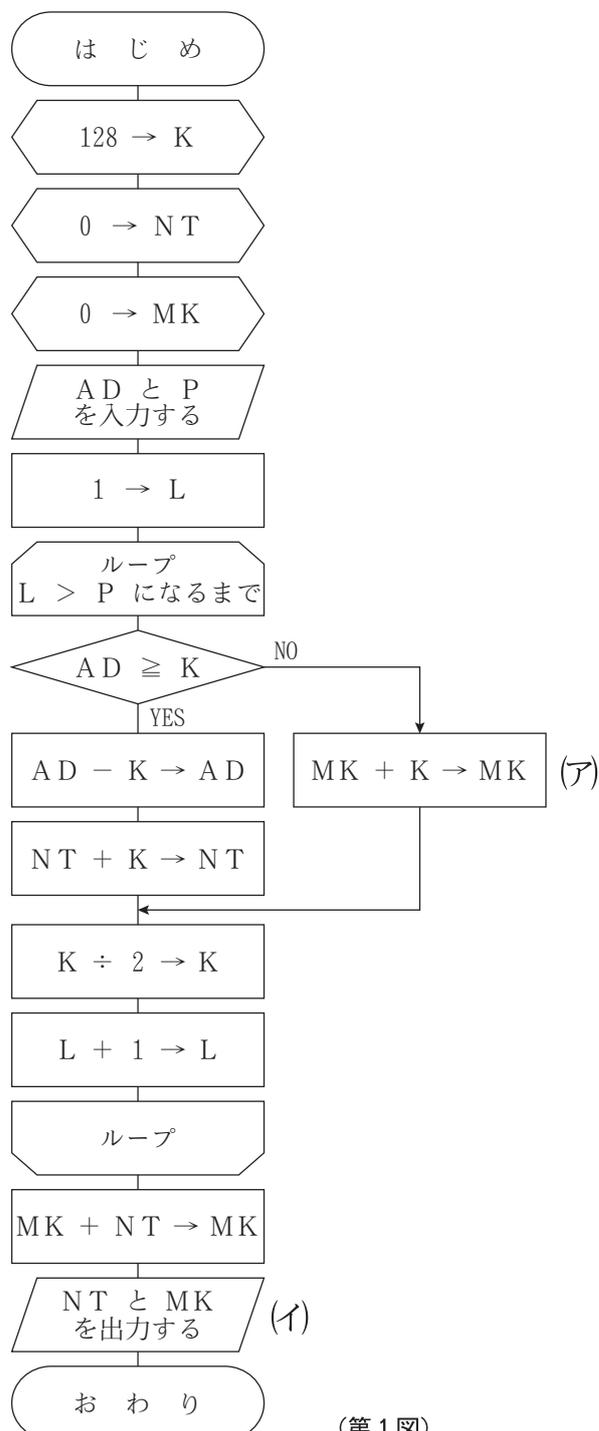
ウ. デバッグ

エ. Java

オ. アセンブリ言語

カ. 文法エラー

問2. 第1図の流れ図にしたがって処理するとき、次の(1)~(3)に答えなさい。なお、入力するADの値は254以下、Pの値は6以下の正の整数とする。



(第1図)

- (1) ADの値が148, Pの値が4のとき、(ア)は何回実行されるか答えなさい。
- (2) ADの値が208, Pの値が3のとき、(イ)で出力されるNTの値はいくつか答えなさい。
- (3) (イ)で出力されるMKの値を説明した文のうち、正しいものはどれか、ア~ウから選び、記号で答えなさい。
  - ア. MKの値は必ず偶数である。
  - イ. MKの値は必ず奇数である。
  - ウ. MKの値は必ず3の倍数である。

【5】 第1図のような2008年12月の1か月間における東京都全域の気象観測ファイルを読み、処理条件にしたがって第2図のように印字する。プログラムの空欄にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

入力形式

(ファイル名：KION-F, レコード名：KION-R)

観測地 (BASHO) ×～×	最高気温 (KOU) ××.×	最低気温 (TEI) ××.×
-----------------------	-----------------------	-----------------------

(第1図)

出力形式

(ファイル名：LIST-F, レコード名：LIST-R)

(2008年12月の東京都全域の気温)			
(観測地)	(最高気温)	(最低気温)	(温度差)
羽田	12.3	5.7	6.6
八王子	11.6	1.4	10.2
}	}	}	}
神津島	13.2	9.6	3.6
	(最大温度差)	青梅	10.8
	(平均温度差)		6.4

(第2図)

処理条件

(1) 第1図のファイルを読み、第2図のように観測地から温度差までを印字する。なお、温度差は、次の計算式で求める。

$$\text{温度差} = \text{最高気温} - \text{最低気温}$$

- (2) ファイルを読み終えたあと、最大温度差とその観測地を印字する。  
 (3) 最後に、温度差の平均を印字して処理を終了する。  
 (4) 入力データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. SA
- イ. GOK / KEN
- ウ. KOU + TEI
- エ. COMPUTE KEN = KEN + 1
- オ. KOU - TEI
- カ. MOVE KOU TO MAX
- キ. GOK
- ク. COMPUTE KEN = KEN + SA
- ケ. GOK - KEN
- コ. MOVE SA TO MAX

WORKING-STORAGE SECTION.

```

01 END-F      PIC X(01).
01 GOK        PIC 9(03)V9.
01 KEN        PIC 9(02).
01 MAX        PIC 9(02)V9.
01 HOZON      PIC X(10).
01 SA         PIC 9(02)V9.
01 HEI        PIC 9(02)V9.
01 MEISAI.
  02 BASHO-M  PIC X(10).
  02          PIC X(09) VALUE SPACE.
  02 KOU-M    PIC Z9.9.
  02          PIC X(09) VALUE SPACE.
  02 TEI-M    PIC Z9.9.
  02          PIC X(09) VALUE SPACE.
  02 SA-M     PIC Z9.9.
01 SHUKEI.
  02          PIC X(34) VALUE SPACE.
  02 BASHO-S  PIC X(10).
  02          PIC X(01) VALUE SPACE.
  02 SA-S     PIC Z9.9.
    
```

PROCEDURE DIVISION.

SHORI.

```

OPEN INPUT KION-F OUTPUT LIST-F
MOVE SPACE TO END-F
MOVE ZERO TO (1) KEN MAX
PERFORM UNTIL END-F = "E"
  READ KION-F
  AT END
    MOVE "E" TO END-F
  NOT AT END
    COMPUTE SA = (2)
    MOVE BASHO TO BASHO-M
    MOVE KOU TO KOU-M
    MOVE TEI TO TEI-M
    MOVE SA TO SA-M
    WRITE LIST-R FROM MEISAI AFTER 1
    COMPUTE GOK = GOK + SA
    (3)
    IF SA > MAX
      THEN
        (4)
    MOVE BASHO TO HOZON
  END-IF
END-READ
END-PERFORM
MOVE HOZON TO BASHO-S
MOVE MAX TO SA-S
WRITE LIST-R FROM SHUKEI AFTER 1
MOVE SPACE TO BASHO-S
COMPUTE HEI = (5)
MOVE HEI TO SA-S
WRITE LIST-R FROM SHUKEI AFTER 1
CLOSE KION-F LIST-F
STOP RUN.
    
```

【6】 第1図のようなあるそば・うどん店の一日の売上ファイルを読み、処理条件にしたがって第2図のように印字する。第5図の流れ図(1)~(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

入力形式

品名コード (HIN-K)	種類コード (SYU-K)	量コード (RYO-K)
×	×	×

(第1図)

処理条件

(1) 第1図の品名コードは、1~5である。品名コードを添字として、第3図のテーブルHIN-TBLには品名、テーブルTANKA-TBLには並盛りの単価が記憶されている。

テーブル HIN-TBL

HIN	山菜	月見	たぬき	きつね	天ぷら
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

テーブル TANKA-TBL

TANKA	400	400	450	450	500
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

(第3図)

(2) 第1図の種類コードと量コードは、次のとおりである。また、大盛りの単価は、並盛りの単価の100円増しである。

種類コード S:そば U:うどん  
量コード 0:並盛り 1:大盛り

(3) 第1図のファイルを読み、第4図のテーブルSU-TBLに売上数、テーブルURI-TBLに売上金額を集計する。なお、第4図の各テーブルは、添字で対応している。

テーブル SU-TBL

SU	(1)	~	(5)	(6)	~	(10)
	(山菜そば)	~	(天ぷらそば)	(山菜うどん)	~	(天ぷらうどん)

テーブル URI-TBL

URI	(1)	~	(5)	(6)	~	(10)
	(山菜そば)	~	(天ぷらそば)	(山菜うどん)	~	(天ぷらうどん)

(第4図)

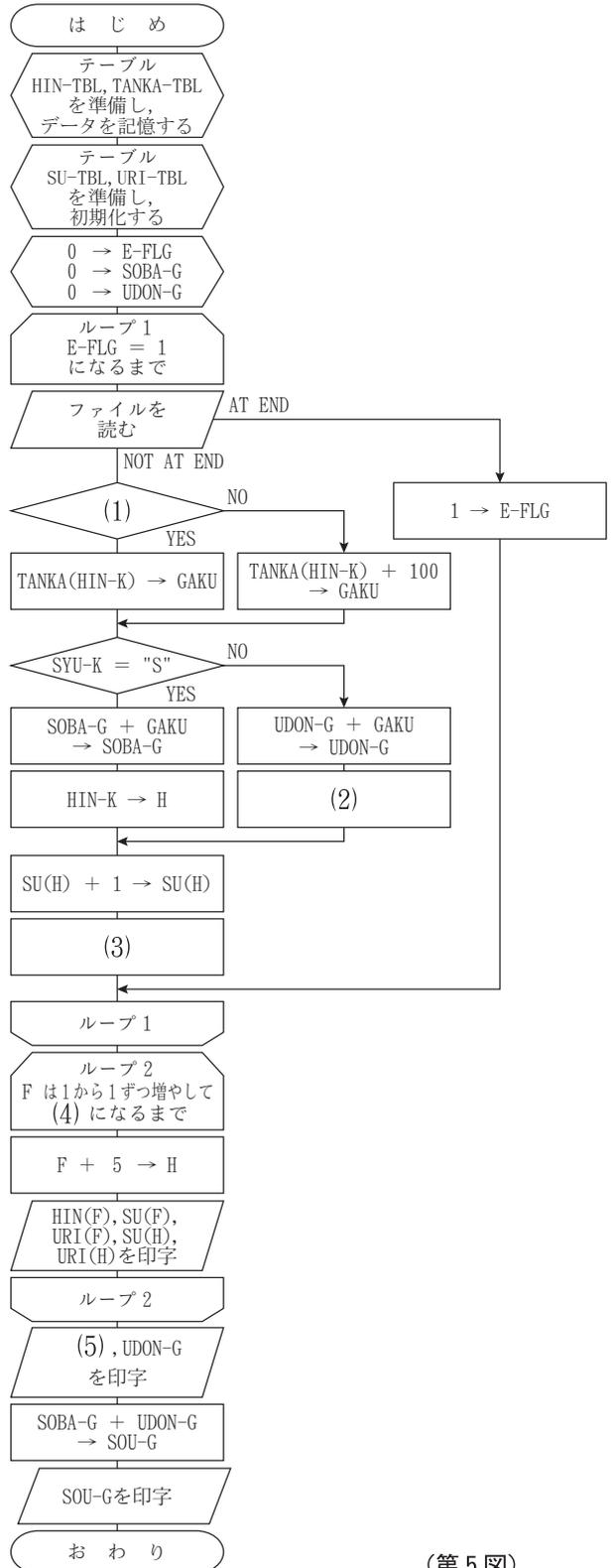
(4) ファイルを読み終えたあと、第2図のように、品名から売上金額までを印字する。最後に、そば・うどんの各売上金額の合計と総合計を印字し、処理を終了する。

(5) 入力データにエラーはないものとする。

出力形式

(売上一覧表)				
	(そば)		(うどん)	
(品名)	(売上数)	(売上金額)	(売上数)	(売上金額)
山菜	10	4,500	18	8,000
月見	15	6,500	14	6,000
~	~	~	~	~
天ぷら	13	7,300	24	12,900
(合計)		36,950		51,450
(総合計)				88,400

(第2図)



(第5図)

解答群

- ア. HIN-K + 5 → H
- イ. URI(HIN-K) + GAKU → URI(HIN-K)
- ウ. F > 5
- エ. RYO-K = 1
- オ. F > 10
- カ. SOBA-G
- キ. HIN-K - 5 → H
- ク. URI(H) + GAKU → URI(H)
- ケ. RYO-K = 0
- コ. GAKU

[COBOL選択者のための問題]

【7】 第1図のようなある高校の長期休業中における特別講座の申し込みファイルを読み、処理条件にしたがって第2図のように印字するプログラムの空欄をうめなさい。

入力形式

(ファイル名：HOSYU-F, レコード名：HOSYU-R)

講座コード (KCODE) ×××	年 (NEN) ×	組 (KUMI) ×	生徒名 (SEITO) ×～×
-------------------------	-----------------	------------------	-----------------------

(第1図)

処理条件

(1) 第3図のテーブル KOUZA-TAB および KMEI-TAB には、それぞれ講座コード、講座名があらかじめ記憶されている。なお、テーブルの KOUZA(9) はエラー検出用に使用する。また、第3図の各テーブルは添字で対応している。

テーブル KOUZA-TAB

KOUZA	101	102	～	202	301	302	
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)	(9)

テーブル KMEI-TAB

KMEI	小論文	数学Ⅲ	～	公務員	簿記上級	基本情報
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)

(第3図)

(2) 第1図のファイルを読み、次の処理を行う。

- ① 講座コードをあらかじめ KOUZA(9) に記憶させる。
- ② 講座コードをもとに第3図の KOUZA-TAB を探索し、第4図のテーブル NINZU-TAB に人数を集計する。なお、該当する講座コードが KOUZA(9) で見つかった場合は、ディスプレイに「コードエラー」と講座コードを表示する。
- ③ 受付番号は、次の計算式で求め、第2図のとおり講座名から受付番号を印字する。なお、各講座の人数は100人未満である。

$$\text{受付番号} = \text{講座コード} \times 100 + \text{人数}$$

テーブル NINZU-TAB

NINZU			～			
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)

(第4図)

- (3) ファイルを読み終えたあと、第2図のように講座開講可否の判定を印字する。なお、判定は人数が10人以上の場合は「開講可能」、そうでなければ「開講不可」とする。
- (4) 講座コード以外に入力データにエラーはないものとする。

WORKING-STORAGE SECTION.

```

        }
01 NINZU-TAB.
   02 NINZU      PIC 9(02) OCCURS 8.
01 MEISAI-G.
   02           PIC X(02) VALUE SPACE.
   02 M-KMEI    PIC X(08).
   02           PIC X(06) VALUE SPACE.
   02 M-NEN     PIC X(01).
   02           PIC X(06) VALUE SPACE.
   02 M-KUMI    PIC X(01).
   02           PIC X(05) VALUE SPACE.
   02 M-SEITO   PIC X(10).
   02           PIC X(06) VALUE SPACE.
   02 M-UKETUKE PIC 9(05).
01 HANTEI-G.
   02           PIC X(02) VALUE SPACE.
   02 H-KMEI    PIC X(08).
   02           PIC X(08) VALUE SPACE.
   02 H-NIN     PIC Z9.
   02           PIC X(07) VALUE SPACE.
   02 H-HANTEI  PIC X(08).
    
```

出力形式

(ファイル名：ITIRAN-F, レコード名：ITIRAN-R)

(特別講座申し込み一覧表)					
(講座名)	(年)	(組)	(生徒名)		(受付番号)
基本情報	3	1	○○	○○	30201
数学Ⅲ	3	3	◇◇	◇◇	10201
}	}	}	}		}
小論文	2	5	△△	△△	10133
公務員	3	3	□□	□□	20212
(講座開講可否判定)					
(講座名)	(人数)	(判定)			
小論文	33	開講可能			
数学Ⅲ	8	開講不可			
}	}	}			
簿記上級	25	開講可能			
基本情報	38	開講可能			

(第2図)

PROCEDURE DIVISION.

```

R1. OPEN INPUT HOSYU-F OUTPUT ITIRAN-F
   INITIALIZE (ア) FLG
   PERFORM UNTIL FLG = 1
     READ HOSYU-F
     AT END
       MOVE 1 TO FLG
     NOT AT END
       MOVE KCODE TO KOUZA(9)
       MOVE 1 TO J
       PERFORM UNTIL (イ) = KCODE
         COMPUTE J = J + 1
       END-PERFORM
       IF J = 9
         THEN
           DISPLAY "コードエラー " KCODE
         ELSE
           (ウ)
           MOVE KMEI(J) TO M-KMEI
           MOVE NEN      TO M-NEN
           MOVE KUMI     TO M-KUMI
           MOVE SEITO    TO M-SEITO
           COMPUTE M-UKETUKE = KCODE * 100 + NINZU(J)
           WRITE ITIRAN-R FROM MEISAI-G AFTER 1
         END-IF
       END-READ
   END-PERFORM
   PERFORM VARYING T FROM 1 BY 1 UNTIL (エ)
     MOVE (オ) TO H-KMEI
     MOVE NINZU(T) TO H-NIN
     IF NINZU(T) >= 10
       THEN MOVE "開講可能" TO H-HANTEI
     ELSE MOVE "開講不可" TO H-HANTEI
   END-IF
   WRITE ITIRAN-R FROM HANTEI-G AFTER 1
END-PERFORM
CLOSE HOSYU-F ITIRAN-F
STOP RUN.
    
```

[イベント駆動型BASIC選択者のための問題]

2009.01 2-⑥

【5】 2008年12月の1か月間における東京都全域の気象観測データを入力し、処理条件にしたがって第2図の実行形式のように表示する。プログラムの空欄にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

フォーム

(第1図)

実行形式

(第2図)

処理条件

(1) 第2図の観測地、最高気温、最低気温にデータを入力し、「処理」ボタンをクリックすると次の処理を行う。

① 温度差を次の計算式で求め、Label1に表示する。

$$\text{温度差} = \text{最高気温} - \text{最低気温}$$

② 最大温度差とその観測地をLabel2とLabel3に表示する。

③ 温度差の平均を求めLabel4に表示する。

(2) 表示に関する設定は、第2図の実行形式のとおりとする。また、入力データにエラーはなく、操作は正常に行われるものとする。

解答群

- ア. Sa
- イ. Gok / Ken
- ウ. Kou + Tei
- エ. Max = Sa
- オ. Kou - Tei
- カ. Ken = Ken + Sa
- キ. Gok
- ク. Gok - Ken
- ケ. Max = Kou
- コ. Ken = Ken + 1

```
Option Explicit
Dim Gok, Max As Single
Dim Ken As Integer
```

```
Private Sub Form_Load()
    Call Syokyo
    Label2.Caption = ""
    Label3.Caption = ""
    Label4.Caption = ""
    (1) = 0: Max = 0: Ken = 0
End Sub
```

```
Private Sub Command1_Click() (処理)
    Dim Kou, Tei, Sa, Hei As Single
    Kou = Val(Text2.Text)
    Tei = Val(Text3.Text)
    Sa = (2)
    Label1.Caption = Format(Sa, "#0.0")
    If Sa > Max Then
        (3)
        Label2.Caption = Format(Max, "#0.0")
        Label3.Caption = Text1.Text
    End If
    (4)
    Gok = Gok + Sa
    Hei = (5)
    Label4.Caption = Format(Hei, "#0.0")
End Sub
```

```
Private Sub Command2_Click() (クリア)
    Call Syokyo
End Sub
```

```
Private Sub Command3_Click() (終了)
    End
End Sub
```

```
Private Sub Syokyo() (消去)
    Text1.Text = ""
    Text2.Text = ""
    Text3.Text = ""
    Label1.Caption = ""
End Sub
```

【6】 あるそば・うどん店の売上データを入力し、処理条件にしたがって第1図のように表示する。第4図の流れ図(1)~(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

実行形式

(第1図)

処理条件

(1) 第1図の品名コードは、1~5である。品名コードを添字として、第2図の配列Hinに品名、配列Tankaに並盛りの単価をフォームロード時に記憶し、品名をLabel11に表示する。

配列

Hin	山菜	月見	たぬき	きつね	天ぶら
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
Tanka	400	400	450	450	500
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

(第2図)

(2) 第1図の種類コードと量コードは、次のとおりである。また、大盛りの単価は、並盛りの単価の100円増しである。  
 種類コード S:そば U:うどん  
 量コード 0:並盛り 1:大盛り

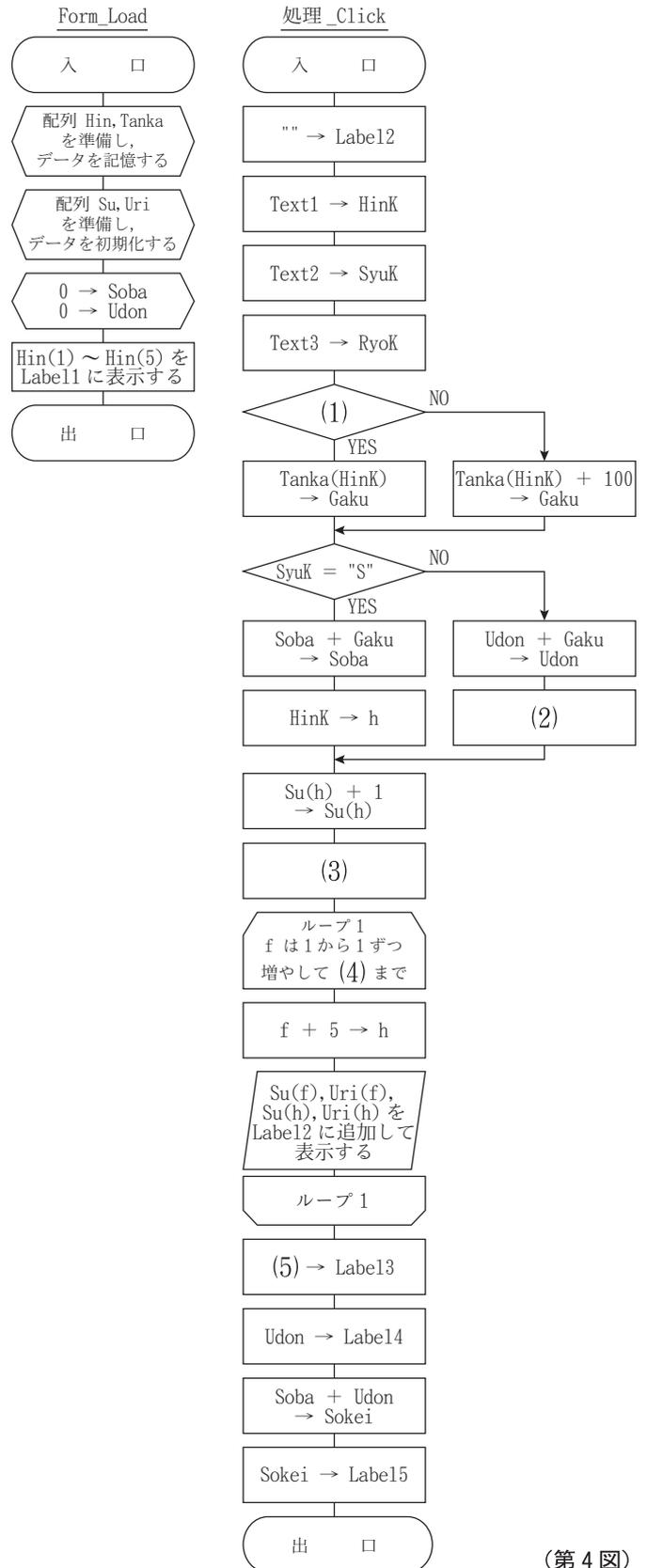
(3) 第1図の品名コードから量コードを入力し、「処理」ボタンをクリックすると、第3図の配列Suに売上数、配列Uriに売上金額を集計し、Label12からLabel15までを毎回表示する。なお、第3図の各配列は添字で対応している。

配列

Su	(1)	~	(5)	(6)	~	(10)
	(山菜そば)	~	(天ぶらそば)	(山菜うどん)	~	(天ぶらうどん)
Uri	(1)	~	(5)	(6)	~	(10)
	(山菜そば)	~	(天ぶらそば)	(山菜うどん)	~	(天ぶらうどん)

(第3図)

(4) 入力データにエラーはなく、操作は正常に行われるものとする。



(第4図)

解答群

- ア. HinK + 5 → h
- イ. Uri(HinK) + Gaku → Uri(HinK)
- ウ. 5
- エ. RyoK = 1
- オ. 10
- カ. Soba
- キ. HinK - 5 → h
- ク. Uri(h) + Gaku → Uri(h)
- ケ. RyoK = 0
- コ. Gaku

【7】 ある高校の長期休業中における特別講座の申し込みデータを入力し、処理条件にしたがって第2図の実行形式のように表示するプログラムの空欄をうめなさい。

フォーム

データを入力して下さい

講座コード 学籍番号 生徒名

Text1 Text2 Text3

Command1

Command2

特別講座申し込み一覧表

講座名	学籍番号	生徒名	受付番号
Label1			

現在までの講座開講予定状況

講座名	人数	判定
Label2		

Command3

(第1図)

実行形式

データを入力して下さい

講座コード 学籍番号 生徒名

101 3216 △△ △△

受付

クリア

特別講座申し込み一覧表

講座名	学籍番号	生徒名	受付番号
公務員	3615	○○ ○○	20201
簿記上級	2438	◇◇ ◇◇	30101
小論文	3216	△△ △△	10118

現在までの講座開講予定状況

講座名	人数	判定
小論文	18	開講予定
数学Ⅲ	8	開講未定
基本情報	25	開講予定

終了

(第2図)

処理条件

(1) 第3図の配列 Kouza および Kmei には、それぞれ講座コード、講座名をフォームロード時に記憶する。なお、配列の Kouza(9) はエラー検出用に使用する。また、第3図の各配列は添字で対応している。

配列

Kouza	101	102	～	202	301	302	
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)	(9)

Kmei	小論文	数学Ⅲ	～	公務員	簿記上級	基本情報
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)

(第3図)

(2) 第2図の実行形式のように、講座コード、学籍番号、生徒名を入力し、「受付」ボタンをクリックすると次の処理を実行する。

- ① 講座コードをあらかじめ Kouza(9) に記憶させる。
- ② 講座コードをもとに第3図の配列 Kouza を探索し、第4図の配列 Ninzu に人数を集計する。なお、該当する講座コードが Kouza(9) で見つかった場合は、メッセージボックスに「コードエラー」と講座コードを表示する。

配列

Ninzu			～			
	(1)	(2)	～	(6)	(7)	(8)

(第4図)

③ 受付番号は、次の計算式で求め、講座名から受付番号を Label1 に表示する。なお、各講座の人数は100人未満である。

$$\text{受付番号} = \text{講座コード} \times 100 + \text{人数}$$

④ データ入力時点までの各講座の人数が10人以上の場合は「開講予定」、そうでなければ「開講未定」を、講座名、人数とともに Label2 に表示する。

(3) 表示に関する設定は、第2図の実行形式のとおりとする。また、講座コード以外の入力データにエラーはなく、操作は正常に行われるものとする。

```
Option Explicit
Dim Kouza(1 To 9) As Integer
Dim Kmei(1 To 8) As String
Dim Ninzu(1 To 8) As Long

Private Sub Form_Load()
    Dim h As Integer
    Kouza(1) = 101: Kouza(2) = 102
    Kmei(7) = "簿記上級": Kmei(8) = "基本情報"
    For h = 1 To 8
        (ア)
    Next h
    Call Syokyo
    Label1.Caption = ""
    Label2.Caption = ""
End Sub
```

```
Private Sub Command1_Click() (受付)
    Dim j, t As Integer
    Dim Kcode, Uketuke As Long
    Dim Ban, Seito, Hantei As String
    Kcode = Val(Text1.Text)
    Ban = Text2.Text
    Seito = Text3.Text
    Kouza(9) = Kcode
    j = 1
    Do Until (イ) = Kcode
        j = j + 1
    Loop
    If j = 9 Then
        MsgBox ("コードエラー " & Kcode)
    Else
        (ウ)
        Uketuke = Kcode * 100 + Ninzu(j)
        Label1.Caption = Label1.Caption & _
            Kmei(j) & " " & _
            Ban & " " & _
            Seito & " " & _
            Str(Uketuke) & Chr(13) & Chr(10)
        Label2.Caption = ""
        t = 1
        Do Until (エ)
            If Ninzu(t) >= 10 Then
                Hantei = "開講予定"
            Else
                Hantei = "開講未定"
            End If
            Label2.Caption = Label2.Caption & _
                (オ) & " " & _
                Format(Ninzu(t), "#0") & " " & _
                Hantei & Chr(13) & Chr(10)
            t = t + 1
        Loop
    End If
End Sub
```

```
Private Sub Command2_Click() (クリア)
    Call Syokyo
End Sub
```

```
Private Sub Command3_Click() (終了)
    End
End Sub
```

```
Private Sub Syokyo() (消去)
    Text1.Text = ""
    Text2.Text = ""
    Text3.Text = ""
End Sub
```

(注) 第2図のLabel1, Label2の表示は見やすく示してある。

(平成21年 1月18日実施)

主催 財団法人 全国商業高等学校協会

平成20年度 (第40回) 情報処理検定試験プログラミング部門 第2級

解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

【4】

問 1			問 2		
(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
			回		

小 計

..... [COBOL] ・ [イベント駆動型BASIC] .....

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【7】

(ア)	
(イ)	
(ウ)	
(エ)	
(オ)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語	
		COBOL	イベント駆動型 BASIC

小 計

合 計

選択言語を  で囲むこと

(平成21年 1月18日実施)

主催 財団法人 全国商業高等学校協会

## 平成20年度 (第40回) 情報処理検定試験プログラミング部門 第2級

## 審査基準

【1】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	エ	キ	コ	ア	ウ	

【2】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	カ	イ	ク	オ	ケ	

【3】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	イ	ア	イ	ウ	ア	

【4】	問1			問2			問1各2点 問2各3点 計15点
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	
	イ	カ	エ	2回	192	ア	

小計
45

..... [COBOL] .....

【5】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各3点 計15点
	キ	オ	エ	コ	イ	

【6】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各4点 計20点
	ケ	ア	ク	ウ	カ	

【7】	(ア) N I N Z U - T A B	各4点 計20点
	(イ) K O U Z A ( J )	
	(ウ) C O M P U T E N I N Z U ( J ) = N I N Z U ( J ) + 1	
	(エ) T > 8	
	(オ) K M E I ( T )	

試験場校名	受験番号	選択言語		小計	合計
		COBOL	イベント駆動型 BASIC	55	100

選択言語を  で囲むこと

(平成21年 1月18日実施)

主催 財団法人 全国商業高等学校協会

## 平成20年度 (第40回) 情報処理検定試験プログラミング部門 第2級

## 審査基準

【1】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	エ	キ	コ	ア	ウ	

【2】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	カ	イ	ク	オ	ケ	

【3】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	イ	ア	イ	ウ	ア	

【4】	問1			問2			問1 各2点 問2 各3点 計15点
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	
	イ	カ	エ	2回	192	ア	

小計
45

## ..... [イベント駆動型BASIC] .....

【5】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各3点 計15点
	キ	オ	エ	コ	イ	

【6】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各4点 計20点
	ケ	ア	ク	ウ	カ	

【7】	(ア) $N i n z u ( h ) = 0$	各4点 計20点
	(イ) $K o u z a ( j )$	
	(ウ) $N i n z u ( j ) = N i n z u ( j ) + 1$	
	(エ) $t > 8$	
	(オ) $K m e i ( t )$	

(注) 大文字, 小文字および空白は問わない。

試験場校名	受験番号	選択言語	小計	合計
		COBOL <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">イベント駆動型 BASIC</span>	55	100

選択言語を    で囲むこと